

進路速報

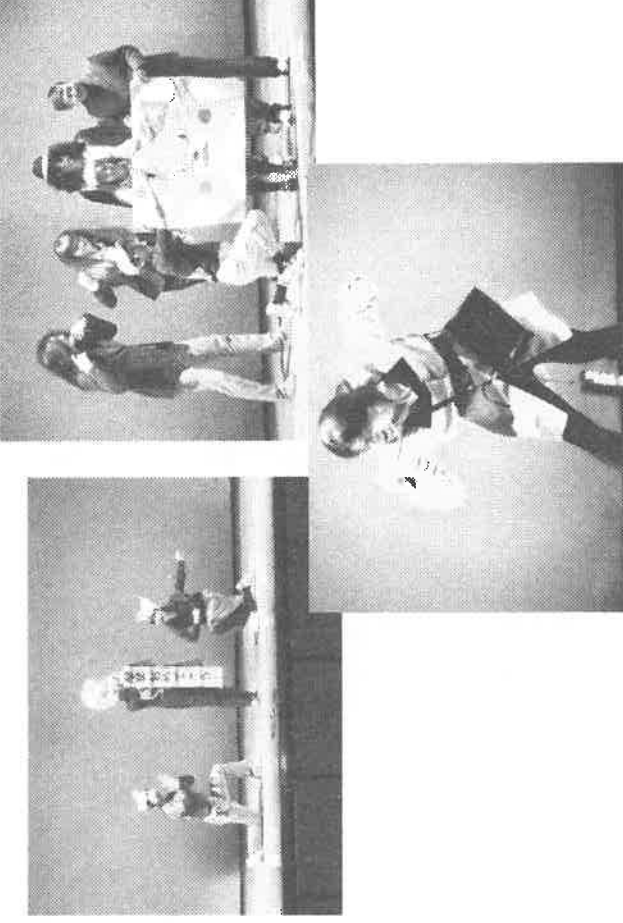
国立大	公立大	私立大
弘前大	早稲田大	23
東北大	慶応大	3
筑波大	上智大	2
宇都宮大	東京理科大	10
群馬大	明治大	49
埼玉大	青山学院大	15
千葉大	立教大	40
東京海洋大	中央大	32
東京外語大	法政大	46
東京学芸大	学習院大	5
東京工業大	芝浦工業大	38
東京農工大	国際基習教大	1
横浜国立大	津田塾大	2
山梨大	日本女子大	6
信州大	東京女子大	8
徳島大	東京都市大	4
香川大	東京農薬科大	27
埼玉県立大	明治大	15
首都大	成蹊大	14
山口県立大	東洋大	108
北九州市立大	駒沢大	20
	専修大	7
	日本協大	61
	独文大	12
	立命館大	6
		1

3年生が合格した主な大学と合格数を表にまとめた。
(現役合格のみ・3月14日現在)

"全員OUT!"

自曝っとる場合やあらへんで!

～平成29年度予餞会～



▲バブリーな鈴木先生

第42期生のために行われたこの予餞会。先輩に楽しんでもらおうと、2年生が精一杯準備してきた成果を見せた。さらに、先生方の熱演に会場は歓声に包まれた。

去る3月7日、予餞会が行われた。当日は肌寒い曇天ではあったが、今年もステージ上では様々な発表が行われ、3年生たちを楽しませた。

始めにオープニングビデオが上映され、3年生からバトンを引き継いだ2年生野球部の熱演が見られた。今年もネタを前半に詰め込むという意図を突いた演出で、「熱盛り!」や「君の名は。」など、流行のネタを取り入れていた。

引き続き吹奏楽部ビッグバンドの演奏、チア部のダンスが披露された。

そしていよいよ恒例の、3年の先生方によるステージである。今回は「ガキの使いやあらへんで!」のパロディ

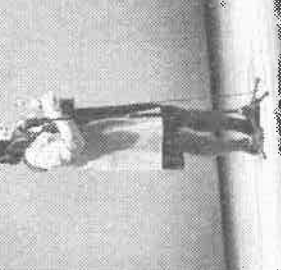


▲ワイルドだろ?

PVをあらかじめ制作し、ネタビデオの場面になると、実際に先生方が登場するというしかけだ。両角先生のソロパフォーマンスの他、原田先生、澤田先生、菅沼先生の3人がライオンキングの曲で登場したり、川島先生がワイルドなシムズ姿で登場するなど、笑わずにはいられないシーンが続いた。当然OUTの連続で、話はなかなか進まず、柳澤先生が加藤清、西川、矢澤の3先生方を何回もバツ

トでお仕置きすると、会場は沸きに沸いた。また、今年も小林、谷、矢島先生ほか、他学年の先生方も登場して、我々後輩も大いに楽しませていただいた。

最後は総出演で「ダシキング・ヒーロー」を踊った。なんとセンターは大阪登美丘高校もびつくりの、平野ノラに扮した鈴木健先生だ。けがで岡本先生が急遽出演できなくなり、当初の予定とは違ったものになったとのことだが、会場全体は熱狂の渦に包まれた。鈴木先生からの卒業生に向けてのメッセージでは、生徒も先生方も感極まって涙していた。



▲ゆりやんしトリー婆

エンディングは思い出のスライド上映で、3年生はこれまでの思い出が呼び起こされたことだろう。利根川前校長先生と庄子先生からのメッセージも流された。

結びの挨拶で、内田前生徒会長は「言葉が出なくなるほど楽しかったので、言おうと思っていたことを忘れてしまいました」と述べ、予餞会は大歓声の中、閉会となった。

3年生を楽しませるという点で大成功を収めた今回の予餞会。来年度以降にむけても期待が高まることだろう。(武藤)

英語でスキット!?

2月15日、体育館で2年生英語レセプションが行われた。春休みから今までの範囲で、教科書や速読英単語の内容を題材に、C英で三学期の始めに発表を



▲取り調べ中...

なお茶のつくり方を学びながら成長したり、ボブシが仮病を使って好きに行動したりなど、多彩な内容で大いに観客をわかせた。出演者も、

何者かになりきって演じてみるという楽しさを、各々の小ネタもはさみつつ満喫していた。(例:「ドクターフィッシュ」など)

教室という狭い空間で演技するのは違い、広い体育館でマイクを使ってそうするのは勝手が違うだろう。きちんと観客に身振りや台詞が伝わるような工夫も必要となる。

今後ますますこのような発表活動は重要になるので、この経験を今後に生かしたい。(武藤)

北高新聞

発行所 埼玉県立所沢北高等学校
新聞部
〒359-0042
埼玉県所沢市並木5-4
電話 (04) 2995-5115
FAX (04) 2991-1007

◇行事予定◇
4月9日 始業式・入学式

4月10日 対面式

4月12日 対面式

宿題確認テスト

二十四節気

春分(3月21日頃)

昼夜の長さがほぼ同じころで、これからは昼の時間が長くなってゆくと、この日ははさんで前後7日間が彼岸。暖かくなってきたが、まだまだ「花冷え」や「寒の戻り」に注意が必要。

北京からの修学旅行生

去る1月29日の5限から放課後にかけて、中国より北京第八十中学校の生徒60名と引率の先生方が来校し、生徒会本部が中心となって歓迎会を行った。

開始後すぐに放送部作成の学校紹介ビデオを放送した。通訳の方がビデオの内容を翻訳し、終了後、生徒からは拍手があがった。

次いで各学校代表の話があった。本校は花岡校長、相手方は張副校長で、「北京第八十中学は模範校の一つで、理念はそれこそ『世界に一つだけの花』のように、人生は教育により開花する、というものである。また、生徒には勤勉・求実などを、先生方には自らが正しく、愛を以て常に自学習し、自らの持つ全ての知識を生徒に伝えることを求めている。時代の発展に後れを取らない

ような人材を育成する」という内容であった。

そして両校生徒代表挨拶。本校からは生徒会長、相手方からは学生団の代表が挨拶した。その後、音楽交流として、ギター部と吹奏楽部の生徒が演奏した。また、相手方も、漢時代の衣裳を着て、民俗舞踊を披露した。

その後は、各個人同士の交流会とで、身振り手振りも交えて、英語で楽しく話をする様子があちらこちらで見られた。

全体会が終了し、剣道部と化学部の活動に参加した。

剣道部では、部員が竹刀の持ち方などを説明したあと、竹刀を持つ



▲民俗舞踊を披露

て新聞紙を両断するという体験をした。

一方の化学部では、グループに分かれ、部員が英語で説明をした。内容は、マグネシウムと塩酸を混ぜて、塩化マグネシウムを生成し、水素を発生させる実験だった。

このプログラムの後に越前会長は、「中国にも日本文化が伝わっていて嬉しかったです。また、『北京はビル街だが、日本の一軒家もいい』と言ってくれたので、その点でも嬉しかったです」と感想を述べた。(武藤)

東大駒場キャンパスで学ぶ

東京大学教養学部は、高校生のための金曜特別講座をほぼ毎月実施している。12月22日の回には北高から10名が参加した。プログラム開始前に簡単なキャンパスツアーがあり、研究室や図書館など見学したあと、食堂でしばしのんびりした。気合は「教科書の見直し」という題で、教養学部田

村隆雄教授の講義を聴講した。源氏物語『若菜』の垣間見の場面は高校教科書ではなじみだが、戦前は現代語訳で小学校の教科書に載っていたというのである。今と昔の教科書本文・挿絵を比較しながら、どのように読み解かれていたのかや、読者が登場人物に感ずるイメージの変化などを学んだ。本来ならいるはずの登場

人物が省略されていたというお話には驚かされた。

この講座は国内ツアー配管され、チャットの方にも感想や質問などが届いていたようだ。現代語訳とはいえ、どう翻訳するかで、読み手が抱くイメージを容易に変えられる、とのお話に、新聞作成の立場として改めて息を引き締めて臨まねと感した。(武藤)